



# 第96回日本薬理学会年会／JPW2022大会

座長：満屋裕明 (NCGH) ・小泉修一 (山梨大学)

## 年会長特別企画講演

# 「科学技術立国の再興に向けて」

日本は終わってしまったのか？

山梨大学学長 島田 眞路先生

12月1日(木) 9:45～10:45 (第4会場)



### 経歴

1952年京都府生まれ。77年東京大学医学部卒業。米国国立衛生研究所留学などを経て86年山梨医科大学(現・山梨大学医学部)皮膚科助教授。91年東京大学医学部助教授、95年山梨医科大学皮膚科教授。2009年から山梨大学医学部附属病院院長、15年から山梨大学学長。



わが国の科学技術力の衰退、低迷が止まらない。先日、世界各国のTop10%論文数が公表されたが、日本は長期低迷傾向にあり、今年は2ヶ国に抜かれ、10位から12位となってしまった。何とヨーロッパ諸国の中で後塵を推してきたスペインとアジアの隣国韓国に抜かれたのである。その原因は、国の科学技術研究費を抑制してきた財務省/文科省にある。国立大学法人化をきっかけに、国立大学運営費交付金を2004年から毎年1%減らし続け、現在では10%以上減額となっている。厚労省も基礎医学研究に対してバッシングを行い続け、卒後臨床研修制度＝大学否定、日本専門医機構＝学会否定を行ってきた。このアカデミズム否定は、かつての文化大革命を想起させる暴挙である。これらの政策のおかげで日本の研究力は顕著に低下した。そのよい例が今般の新型コロナウイルス感染症対応で露わになった。ワクチン、治療薬ともその開発は、欧米に大きく遅れをとってしまった。これらの科学技術研究を中心とするアカデミズム抑制政策を即刻転換しなければ、日本の科学技術力は本当に地に堕ちる可能性があり、深く憂慮している。